

研究データポリシーの 履行を支援する DMP/DMRツール

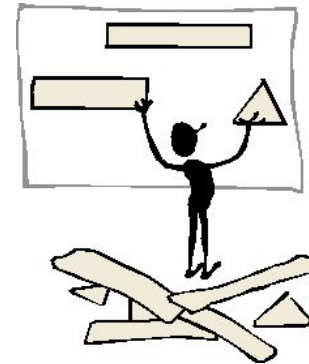
NIIオープンフォーラムAXIES-RDM部会合同セッション
「機関の研究データガバナンスとポリシー」
国立情報学研究所 船守美穂
2024年6月12日

Today's Talk

1. NII/全国版研究データポリシーの状況
2. 研究データポリシーの履行を支援するDMP/DMRツール

1

NII/全国版の 研究データポリシー の状況



NII研究データポリシーの特徴

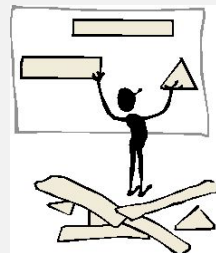
1. 機関の研究データガバナンスを規定するものとして策定
2. 具体性のあるアクションブルなポリシーとして策定
 - ① 基本方針
 - ② 研究データの管理・公開枠組み

国立情報学研究所研究データ管理・公開ポリシー ～責任ある研究データの管理・公開に向けて～（試行版）

前文

I. 基本方針

1. 本ポリシーの目的
2. 用語の定義
3. 適用範囲
4. 機関が管理・公開する研究データの考え方
5. 機関における研究データ管理・公開の考え方
6. 機関と研究者の協力の原則と各自の責務



「基本方針」と
「実施方針」に
分離

II. 研究データの管理・公開の実施方針

7. 研究データの管理・公開の実施方針の全体像
8. 研究データの管理・公開に関わる責任
9. 機関による研究データの管理・公開の推進
10. 研究データの管理・公開の枠組み
11. 研究データの管理
12. 研究データの共有・公開及び利活用への配慮
13. 組織整備研究データの機関提供と利活用の促進
14. 研究データの管理・公開のための環境整備
15. 機関における研究データの管理・公開についての体制
16. 研究者の退職・採用に関わる対応

III. 雑則

17. 関連法令等
18. ポリシーの定期的見直しと試行

NII研究データポリシーの公開

- NIIオープンサイエンス基盤研究センター（RCOS）ウェブサイトにて公開
- 公開URL:
<https://rcos.nii.ac.jp/service/datapolicy>

NII/全国版研究データポリシー 実験校WG

- NIIで策定した研究データポリシーを部分的にでも採用し、自大学ポリシー等の策定に役立てる実験校によるWG。
- このようにして策定された実験校のポリシーや実施方針、ガイドラインを「ポリシー等(サンプル)」として全国に提供し、各大学が自大学の特性や事情に合わせて、ひな形となるサンプルを選択できるようにするのが狙い。

ポリシー策定済の大学

- 参加大学
 - 名大、東北大、金沢大
- NIIポリシーの適用方法
 - NIIポリシーの実施方針部分を、自大学の実施方針やガイドラインとして導入
 - 自大学ポリシーの全面的改定も視野に検討

ポリシー未策定の大学

- 参加大学
 - 滋賀大、弘前大、徳島大、琉球大、帝京大
- NIIポリシーの適用方法
 - NIIポリシーの基本方針部分を、自大学のポリシーとして導入
 - NIIポリシーの実施方針部分を、自大学のポリシーとして導入
 - NIIポリシーを全面的に導入 等

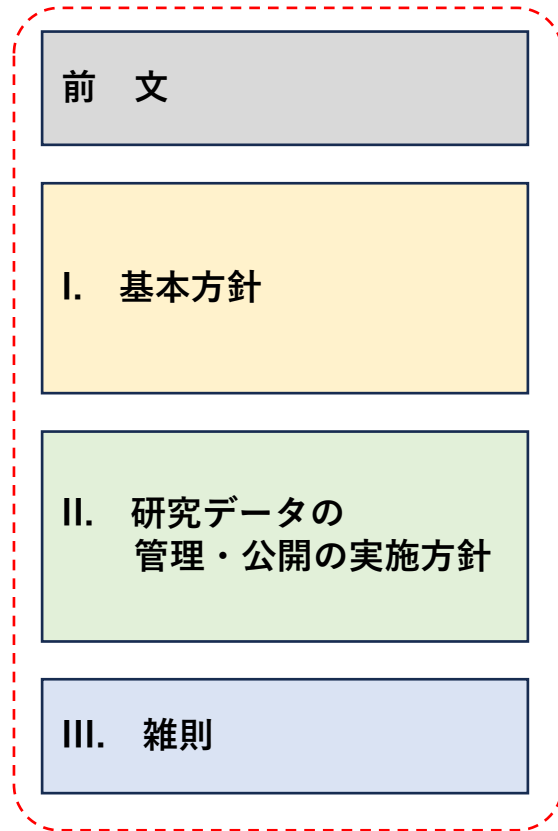
2024年度以降は、
研究データポリシーの
実施方針、実施要領、
ガイドライン等を
策定予定



参加希望の
大学は
連絡してね！

大学の研究データポリシーにおける NII-RDP採用のパターン

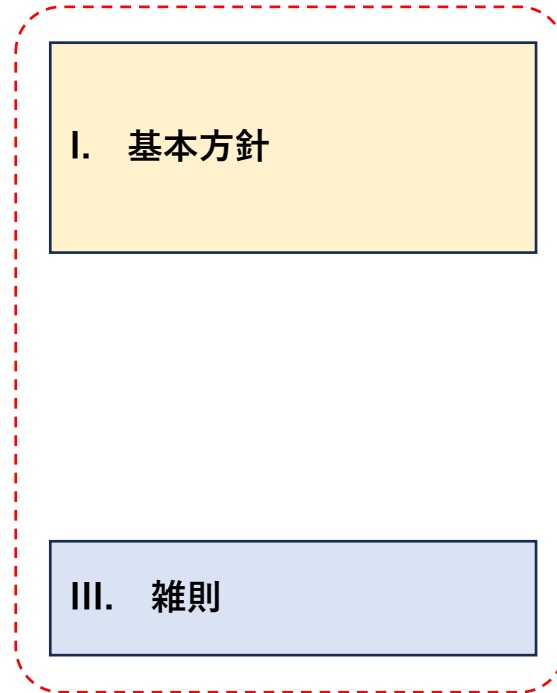
案1：NII-RDP 全面採用



自大学のポリシーや下位規則等
として採用

(金沢大学)

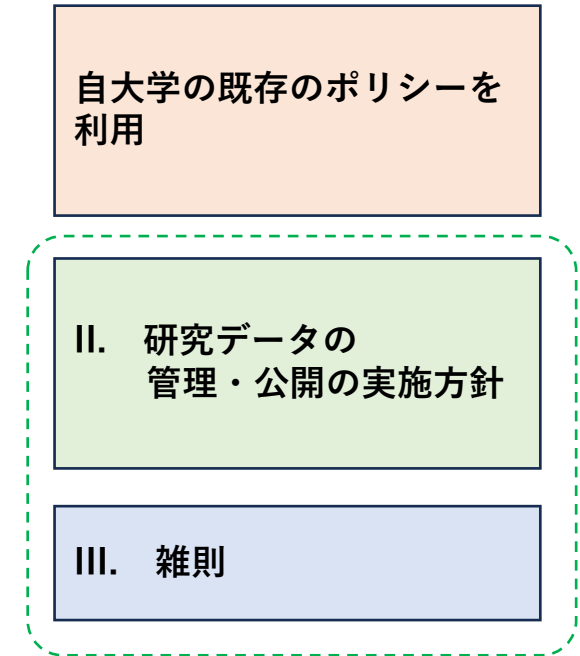
案2：NII-RDPの 基本方針を中心に採用



自大学のポリシー
として採用

(滋賀大学、ROIS)

案3：NII-RDPの 実施方針を中心に採用



自大学の実施方針
として採用

(名古屋大学、NII)

NII研究データポリシーの状況

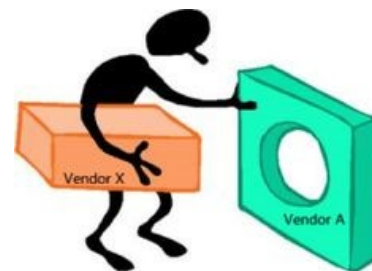
- 2023.3 NII-RDP(試行版)を所内承認
- 2023.4-5 (NII-RDPの法務チェック)
- 2023.5 法務チェック済みのNII-RDP(試行版)をNII-OF2023ウェブサイトにて公開
- 2024.3 ROISにて研究データポリシー策定を表明
 - ROIS: NII-RDP基本方針分を利用し、ポリシー策定予定
 - NII : NII-RDP実施方針分を利用し、ポリシー策定予定

国内大学における 研究データポリシー策定状況調査(案)

- 調査実施主体： AXIES-RDM部会
- 調査目的：
 - ① 国内大学における研究データポリシー策定状況の把握
 - ② これからポリシーやガイドライン等を策定する国内大学への参考として提供
- 調査期間： 2024年6月－7月(予定)
- 調査URL： <https://sites.google.com/view/axies-jpcoar/home> にて掲載予定

2

研究データポリシーの 履行を支援する DMP/DMRツール



DMP →

DMR

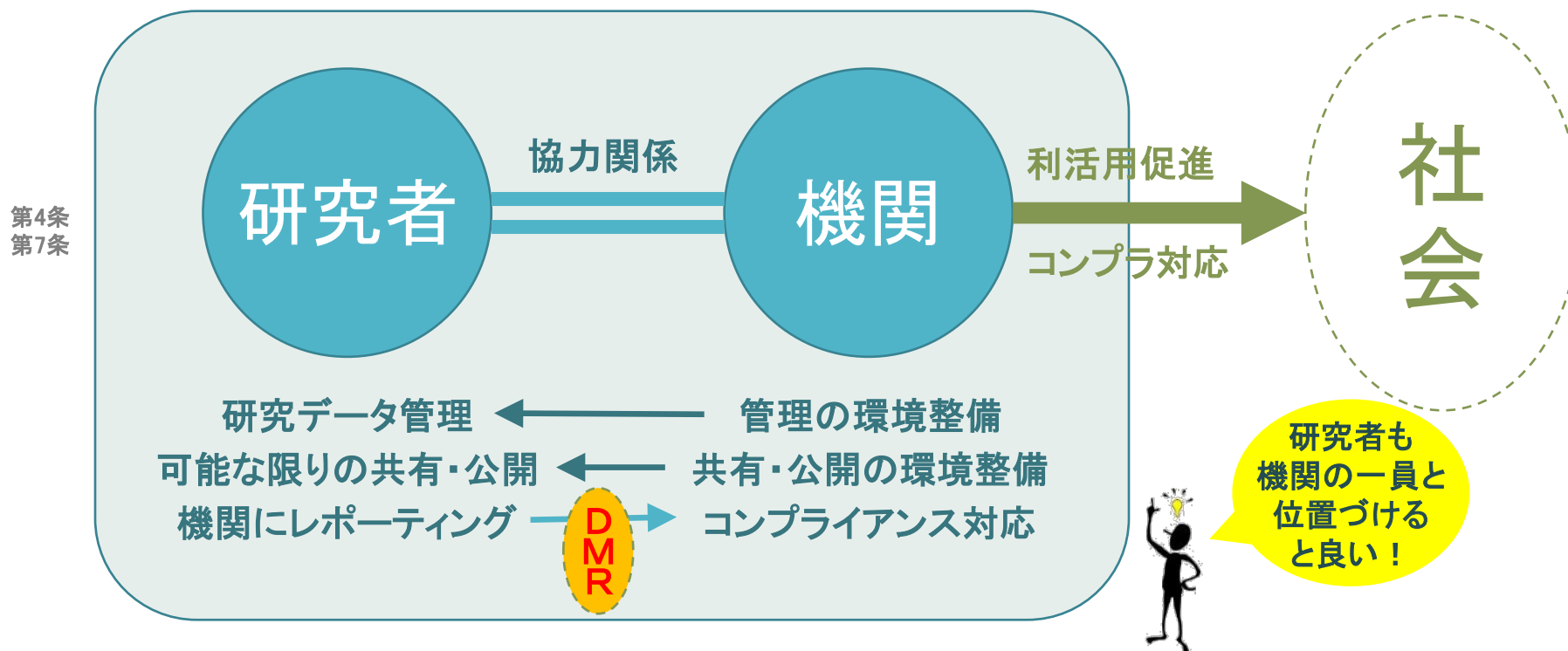
Data Management Record の提案

大学の研究データガバナンスは、
計画ではなく、
研究データの取扱いに関する
記録で担保される



日本型の研究データ機関管理（イメージ）

「機関と研究者」の協力関係の上に成り立つ研究データの機関管理



- ✓ 「機関と研究者」の協力関係の上に成り立つ研究データの機関管理とすることで、米国コンプライアンス型の「機関は研究データのオーナー、研究者は管理者」という図式を回避する。
 - そもそも、無体のデータには所有権が認められないため、この考え方の方が適切。
- ✓ このイメージでは、研究者も機関の一員と位置づけるため、研究者は自分の手元に研究データを置いておくことができる。
- ✓ ただし、機関は「研究データとその管理」の実態を把握していなければならないため、研究者は機関に対して最低限のレポートイングする必要がある。また、緊急時には、研究データをすぐに提供できなければならない。

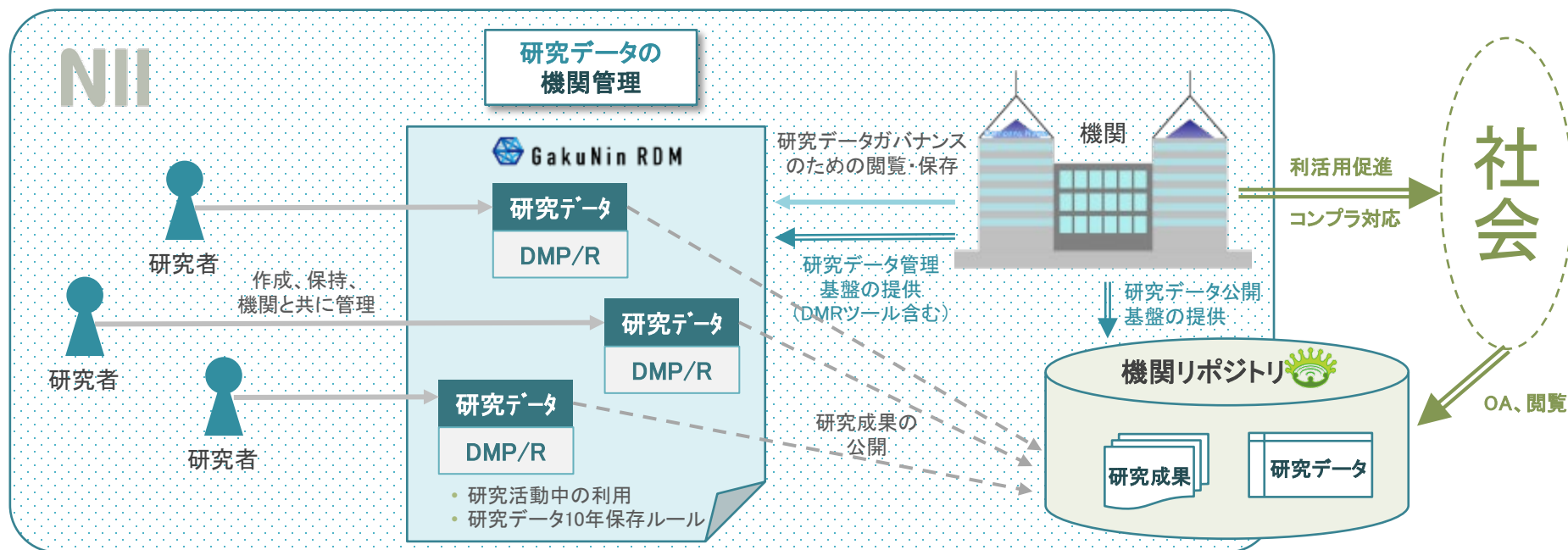
NIIの研究データガバナンスの仕組み

研究者

- 研究データとその管理方針・記録(DMP/R)を機関と共有
- 研究成果と研究データを可能な限り公開

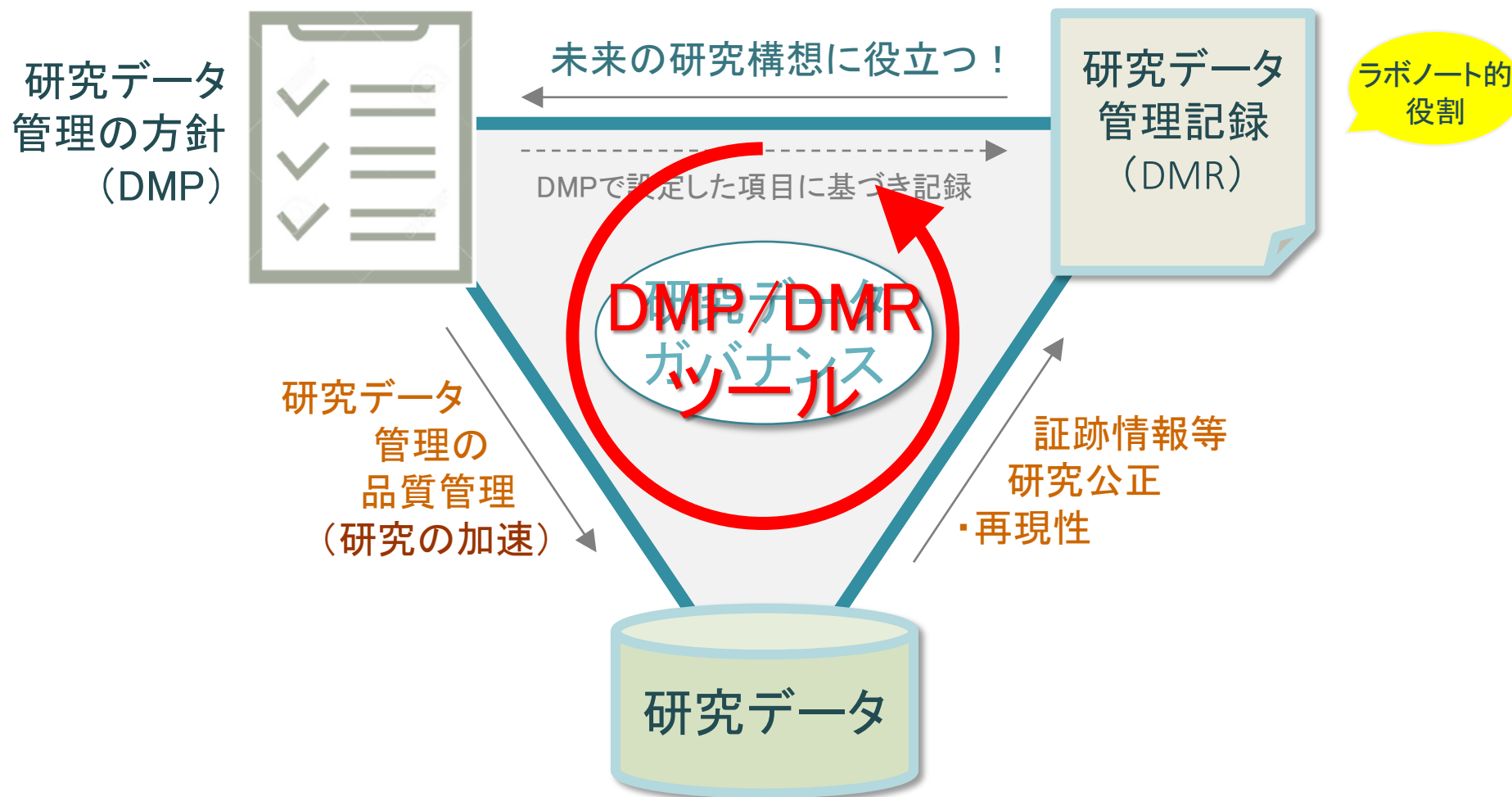
- 研究データの機関管理とコンプラ対応
- 研究者の研究データの管理・公開のための環境整備

機関



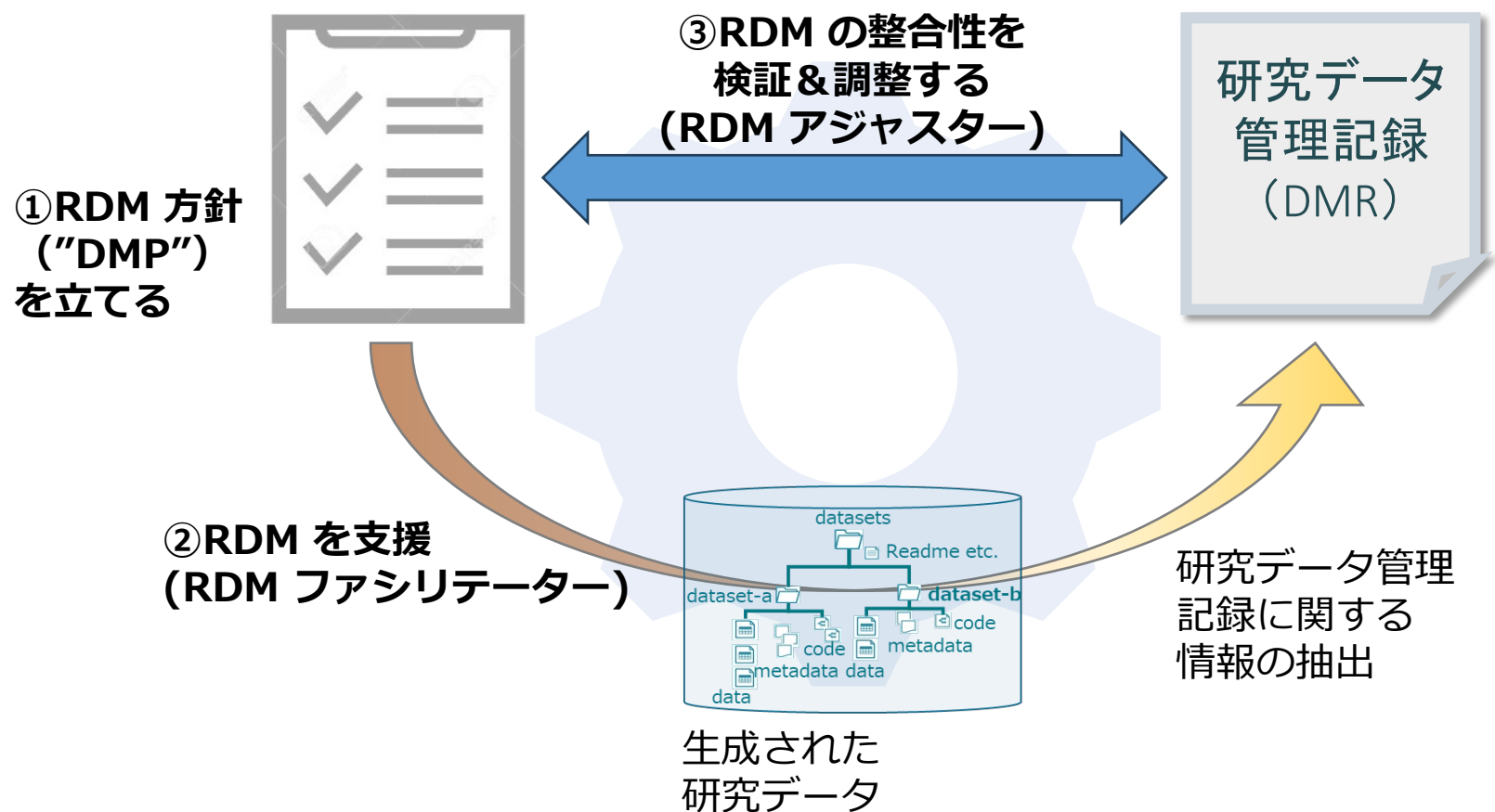
- ・ 研究者が、機関提供環境以外において自身の研究データを管理・保存、共有・公開することは自由です。
- ・ ただしその場合、(特に不慮の事態における)機関による組織的バックアップは得られず、自身で責任を持って対応する必要があります。

NII-RDP: 機関における研究データの管理 ...研究データとその管理方針・記録の利用



NII RDC データガバナンス機能

- ①データ管理方針の策定を支援
- ②その方針に基づいて研究データ管理を支援
- ③データの管理状態がデータ管理方針に合致しているか検証&調整



NII研究データポリシー

...5.1条 研究データの管理・公開の原則

- A 法令等及び契約の遵守、研究データに関する説明責任
- B 適正な研究データの取扱い
 - ① 安全管理措置
 - ② 研究データ、関連情報及び関係する者に関する権利利益の保護
 - ③ 研究データの提供元による条件の遵守
 - ④ 研究課題内の研究データの保有主体等の設定と運用
 - ⑤ 研究データの共有・公開に係る条件の整備
- C 研究の公正及び研究の再現性への配慮
- D 可能な限り多くの、長期的な研究データの共有・公開

DMP/DMRと機関との共有情報(例)

研究データ管理・公開の原則	DMP/DMR	機関との共有情報
① 情報セキュリティ	- データの機密度別保存場所 - データの機密度別アクセス権限	■データ管理方針 ・証跡情報
② 研究データ内の個人情報、機密情報等の取扱い	- 遵守すべき法・契約等別の「保護を必要とするデータ」の特定 - データ種類ごとの適切な取扱い	■「保護を必要とするデータ」の特定方針 ●契約等原本 ○機関内手続きの履歴 ・証跡情報
③ 研究データ提供元への配慮	- データ提供元の条件、ライセンス条件等の明確化 - 提供元条件に応じた適切な取扱い	■データ取扱方針 ●ライセンス条件等の原本 ・証跡情報
④ 研究チーム内の管理	- 研究・研究データ生成への貢献度 - 知財、データの帰属 - 論文・データのオーサiership	■チーム内貢献度管理の方針 ○知財、データの帰属の記録 ○論文等のオーサiership記録
⑤ 研究データの共有・公開の条件等	- 公開/制限公開/共有/非公開データの特定 - データごとの共有・公開先、条件の特定・運用	■データ共有・公開条件特定方針 ○データ提供元の条件等の記録 ○データ共有・公開条件運用の記録
⑥ 研究公正・再現性への配慮	- 研究データ10年保存 - 証跡情報の保存 - バージョン管理等	○研究データ10年保存 ・証跡情報 ■バージョン管理方針 ○研究データ管理の記録
⑦ 研究成果の共有・公開	- 研究成果管理 - 研究成果のOA	○研究成果一覧 ■研究成果のOA方針 ○機関リポジトリ等の研究成果情報 ・GRDM→機関リポジトリへの公開履歴

※証跡情報：ファイル保存・管理・アクセス履歴等

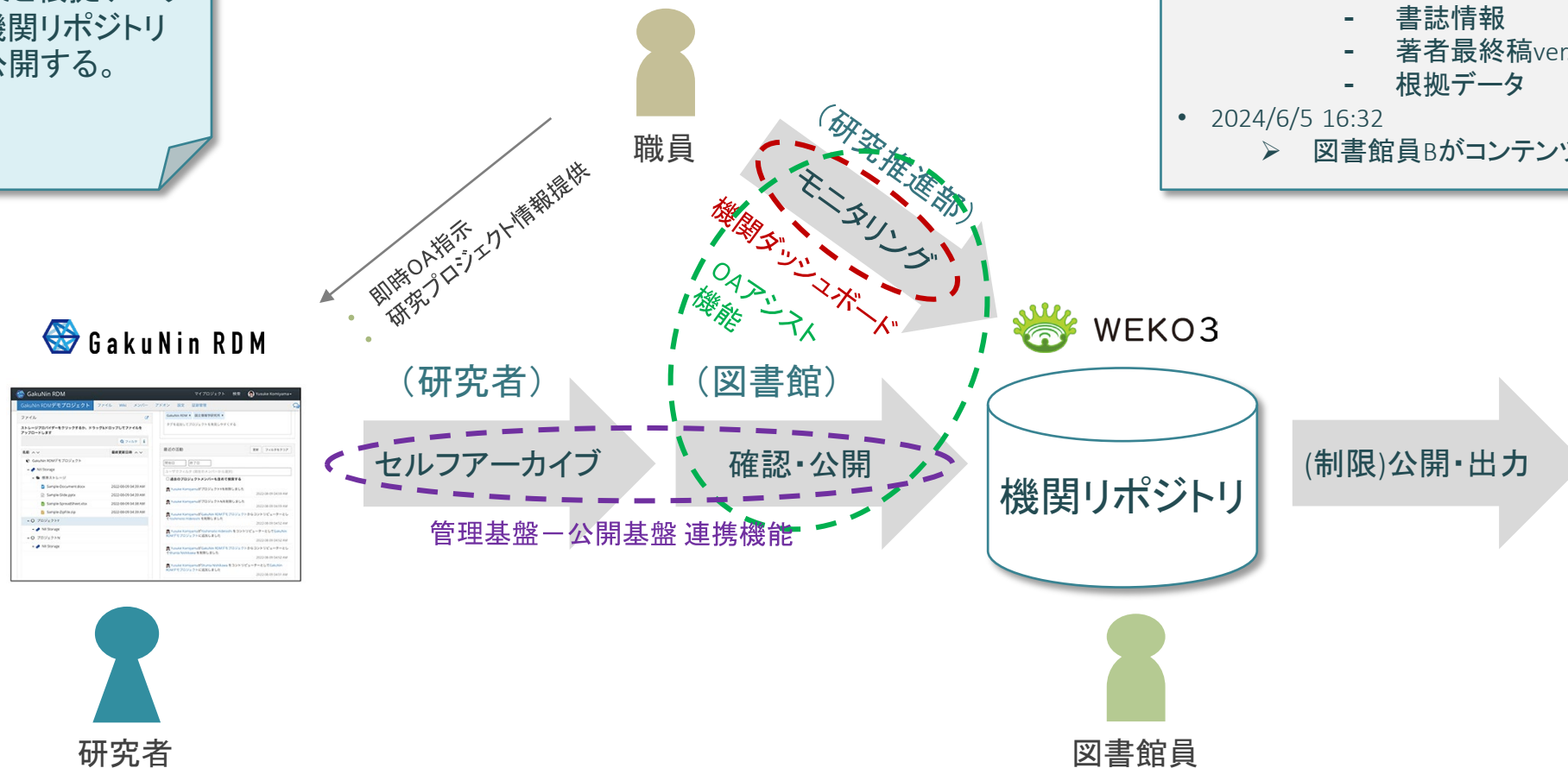
機関リポジトリ等における即時OA義務化とDMP/DMRツール

DMP

- 論文出版直後に、論文と根拠データを機関リポジトリで公開する。

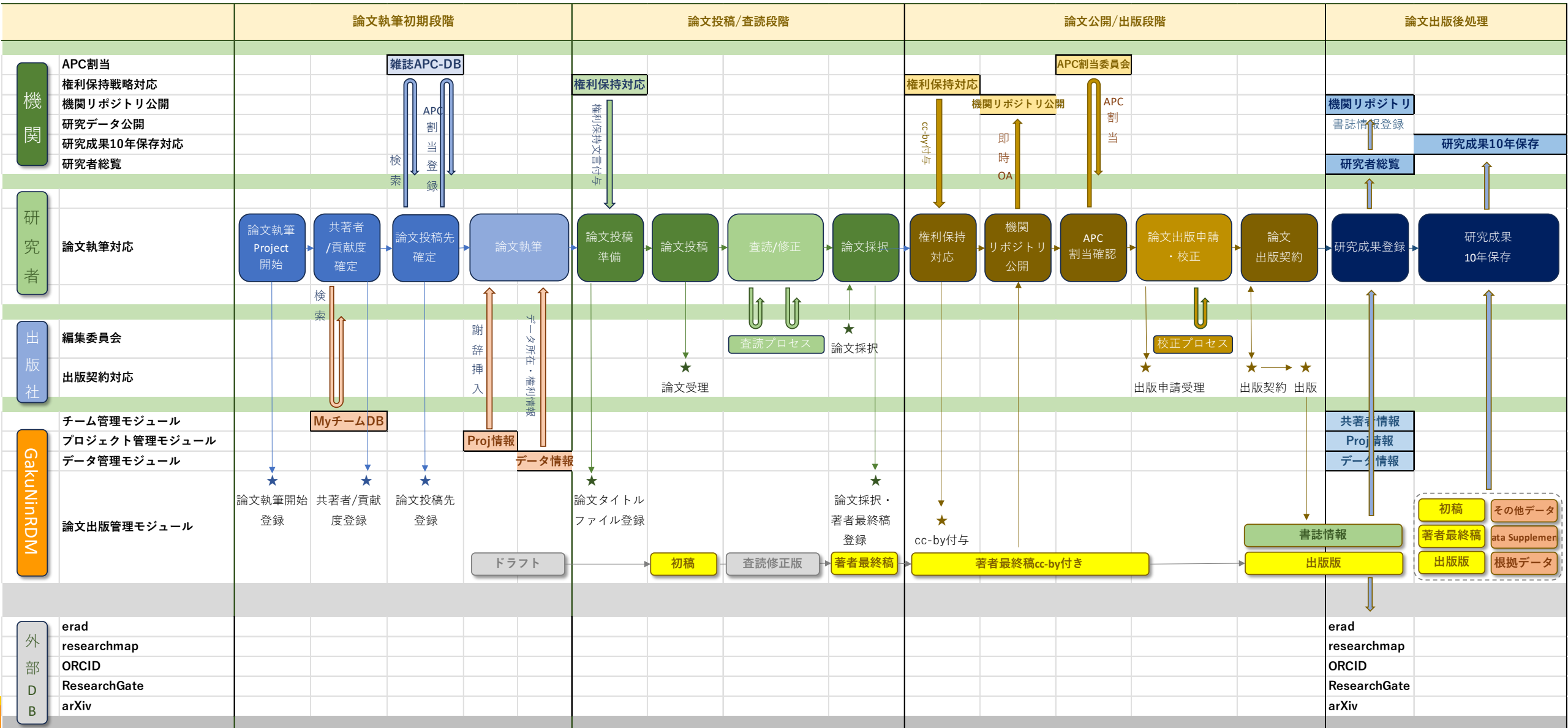
DMR

- 2024/6/5 14:53
 - 研究者AがGRDM→機関リポジトリに以下のコンテンツを送出し
 - 書誌情報
 - 著者最終稿ver.3.2
 - 根拠データ
- 2024/6/5 16:32
 - 図書館員Bがコンテンツを確認＆公開



研究成果管理ワークフローとモジュール

将来の理想像
(NIIと大学の連携による)

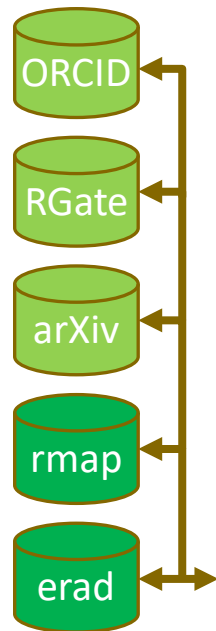


PIのための 研究管理ステーション



機関は、
DMRを裏から
確認できると
良い

外部DB等



チーム管理

- メンバー追加
- 役割・貢献度管理
- アクセス管理
- ML設定
- Slack設定
- ワークスペース設定

プロジェクト管理

- 申請書作成・提出
- 年次成果報告書作成・提出
- 研究費分配・管理
- 研究費執行・管理

データ管理

- DMP作成・更新
- ライセンス管理
- 利用条件、保存媒体、アクセス管理
- 機密情報管理
(個人情報、輸出貿易管理等含む)
- 共有・公開先の条件管理

研究成果管理

- 研究成果バージョン管理
- 投稿時:
 - 論文投稿先・APC・IFの把握・管理
 - 権利保持戦略対応
- 採択時
 - 著者最終稿の公開
- 出版時
 - 著作権、APC管理
 - 研究データ10年保存
 - 研究成果登録
(erad, rmap, OECD, Rgate等)

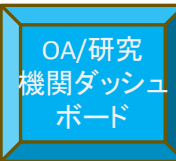
研究者情報

プロジェクト情報

GakuNinRDM上のデータ連携

研究成果情報

大学の
システム



JOSS2024 6/20(木) 18:00ー19:30 (オンライン開催)

「オープンサイエンス時代の権利保持を考える(1) ー即時OA下の論文の権利に着目して」

□ 司会：船守美穂(NII)

□ 講演：Sally Rumsey(30分)

「欧州における研究助成機関および大学による即時OAへの対応
ー権利保持に着目して」

- 元オックスフォード大学図書館のHead of Scholarly Communications & RDM
- 現cOAlition Sの権利保持戦略を中心としたアドバイザー

□ パネル討論(7分のポジショントーク+30分の全体討論)

- 研究者 : 光石衛氏(日本学術会議・会長)
- 大学図書館 : 尾上孝雄 (大阪大学 理事・副学長、附属図書館長・情報推進本部長)
- 政府/研究助成機関: 赤池伸一氏(内閣府参事官)
- 出版社 : 浦上裕光(Springer Nature アカデミック・エンゲージメント・ディレクター)